

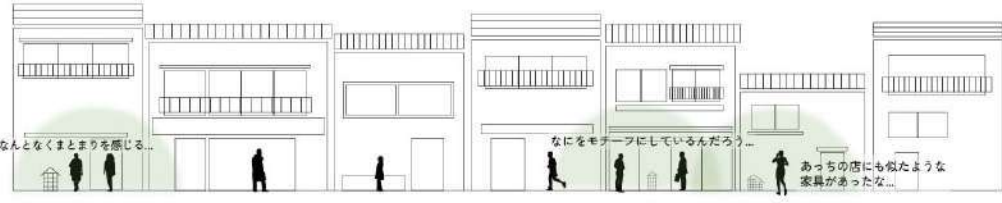


00. はじめに

愛知県平田市亀崎町で毎年、生田研究室に入った3年生全員で行うプロジェクト。「まちおこし」をテーマに協力していただける店主を探るところから施工まで自分たちの手で行う。

01. 提案 - 小さな気づきの連続で商店街の繋がりを取り戻す -

亀崎町の発展の中心であった商店街である仲町通りは、かつての人通りが見られなくなってしまった。現在は、当時からある店だけでなく、新しく亀崎に入った店も加わり、個々の活動が店先に賑わいを作りつつある。そこで私たちは、各店舗に共通のモチーフにした家具を製作させていただき、それが生業の中で使われながら景観としても通りの一体感を生むことを目指す。



02. デザインコンセプト

亀崎町独自の文化「鬼門地蔵」

共通のモチーフを選ぶ上で、それが地域の人たちにとって愛着の対象になるべきだと考えた。そこで亀崎町独自の文化として残っていた「鬼門地蔵」を取り入れた。鬼門地蔵とは、災いが来るとされている北東方向に向けて、家の外壁にお地蔵さんと祠を設置するものである。街の至る所の住宅に祠が見られて、それが全て同じ方向を向いているのが、亀崎らしい風景であると考えた。



視覚情報から鬼門地蔵と認識しやすい「切妻屋根、格子、北東方向を向くこと」を要素として選定し、提案のデザインに組み込む。

03. 通り全体への展望



小さな気づきの連続
鬼門地蔵を共通のモチーフにしたことで、通りを歩く人に小さな気づきの連続を体験してもらうことができる

04. 仲町通りをつなぐ家具

フラワーショップ錦花園	高原時計店	まちかどサロン亀とも	そば切り無双	久栄丸呉服店	メヌエット	紀伊國屋
用途：フラワースタンド	用途：傘立て	用途：対の椅子	用途：メニュー立て	用途：2人掛けベンチ	用途：看板	用途：看板&傘立て



上に置かれる季節ごとの植物を引き立てつつ、道ゆく人の視線を集め、鬼門地蔵の存在を感じさせるデザインとなっている

鬼門地蔵という和の形を、洋風の店の外観に合わせた真っ黒なアルミで表現したことで、道ゆく人の目に止まるような不思議さを感じさせる

並べるとベンチのようにも使える二つ一組の椅子であり、鬼門地蔵から椅子が同じ方向を向いている不思議さを踏襲している

民家を改修した店舗なので、外観と一体化するように、鬼門地蔵に限らず近いデザインをした

鬼門地蔵の切妻と格子をさりげなく構造部分に取り入れ、存在は感じさせず、座ることに抵抗がないよう配したデザインをしている。

鬼門地蔵を踏襲した要素と、看板、鬼門地蔵を共通のモチーフにしたことで、通りを歩く人に小さな気づきの連続を体験してもらうことができる

鬼門地蔵の形態を応用して、看板&傘立ての機能を統合した

05. その後



住民の方から、建物と一緒に取り壊す予定だった鬼門地蔵の移築・改修の依頼を受け、現在進行中である。亀崎町の中で、鬼門地蔵が再評価されるきっかけとなったのではないだろうか。

住民の人の中で、鬼門地蔵の文化を知らない方も増えてきている。今回を機に鬼門地蔵を知った方から、「自然と鬼門地蔵を探そうになり、まちを歩く楽しみができた」というコメントをいただいた。